

坂の上通信

令和三年七月二十一日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文化部(四〇三演習室)

文化祭 2年ぶり開催

一般公開はなく生徒のみ

6月に実施予定だった文化祭が、7月16日(金)に開催された。土曜日の一般公開はなく、参加者は生徒のみ。それでも1・2年生にとっては初めての、3年生にとっては最後の文化祭を思い思いに楽しんでいった。

コロナ禍の中で全校生徒を講堂に集めることは困難なため、クラスを午前講堂組・午後

講堂組に分けて開催された。ステージ発表の文化祭は、午前と午後で2回講演を行った。



距離を取って座った観客を前に、熱演する吹奏楽部

学校の「顔」に インタビュー



今回は、物理科の松浦先生にお話を伺った。

「物理教師になろうと思ったきっかけは？」

「物理教師になろうと思ったのは、友達と勉強会で物理を教える機会があったからです。」

「休日は何をされていますか？」

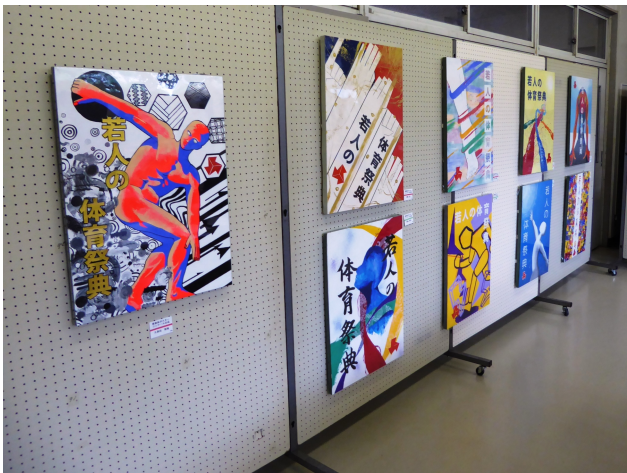
「休日はバスケット部の活動です。」

動いていることが多いですね。それでも暇を見つけたらサウナに行きます。頭がスッキリして、嫌なことも忘れられるんですよ。

「美高生に一言。」

「若いうちは十分なエネルギーと時間があるの

で、失敗を恐れず何事にも挑戦してほしいです。」



それぞれの個性が発揮された文化部の展示

個性が輝いた 展示の部

展示の部

展示の部に参加したのは茶道部、華道部、美術部、書道部、コンピュータ部、科学部、あすなろ会、新聞文化部の8つ。コロナ禍の中で作り上げた個性ある作品が展示され、会場を訪れた人は一つひとつを楽しみながら鑑賞していた。

また茶道部は実際にお点前を披露したり、美術部はオリジナル缶バッジやシールを販売するなど、様々な工夫を凝らしていた。

一般公開がなく、また全校生徒の半数は常に講堂にいますという状況のため来場者数は例年よりも少なかったが、人の目に触れる機会が少なかった作品が公開される今回の機会を、多くの文化部は歓迎している様子だった。

クラス発表 例年にならない工夫

例年、3年生は食品バザーを行うクラスが多い。過去にはフランクフルトや揚げもみじなど食品をその場で調理して提供することが可能だったが、今年は感染予防のために個包装されたものを提供するというルールが課された。また例年ならば千人を超える来場者も

見込めないため、どのクラスもかなり頭を悩ませたようだ。だが当日は各クラスともクッキーやマカロロン、ドーナツ、ワッフルなどの洋菓子を提供したり、駄菓子やジュースをゲームと組み合わせるなどして店開きをするなど様々な工夫をみせていた。一年だけとはいえ、文化祭を経験している強みを発揮したと言えるだろう。

一方、2年生はカジノやサイバールゲーム、大がかりなボールリングなど、ゲームを中心に様々な企画を展開し、参加者・企画者ともに楽しそうな声が上がっていた。文化祭経験はないものの、かえってイメージを狭めることなく柔軟な発想で企画を考えることができたようだ。

歌は世につれ

歌は世につれ世は歌につれ。歌は、時代のアルバムです。

このコーナーでは、先生方の青春時代の思い出の一曲を、当時のエピソードとともに紹介していただきます。今回は、理科の池本

アーティスト	EXILE
曲名	ChooChooTRAIN



8年前からダンスを始めて、踊った最初の曲です。曲の初めの、一列目から円を描くフリスを少しずらずらしていくところが好きでした。

仲間と一緒に何度か練習したことが、とてもいい思い出になっています。何度聴いても元気が湧いてくる曲です。今でもよく聴いているし、きっと今でも踊れます。名曲だなあ!

美・鈴・鈴・鈴

文化祭そのものを中止する高校も少なくない中、美高では先週文化祭を開催することができた。まずは準備に取り組んだ生徒会や先生方、また各文化部の皆さんとともに喜びたい。▼ただ企画に多くの制限がかかったこと、そして校外の方に見ていただけなかったことは、やむを得ないこととはいえ残念だった。来年に期待しよう。▼

インターネット上には、面白い文化祭の企画の記事や動画があふれている。遊園地さながらのアトラクション、例えば全長約50mの本格的なジェットコースターやコーヒーカープ、古タイヤとパイプ椅子と自作の映像を駆使した「スターツアーズ」を作った高校もあるそうだ。ある程度の距離を保つことができるものとしてクイズ大会を開催したり、それ自体を番組にして上映したものもあった。▼コロナ禍の中での文化祭は心配ではあるが、だからこそできる企画もあるはずだ。1・2年生の皆さんは早々と来年の「ネタ」を考えてみるのもいいかもしれない。

編集後記

無事開催できて本当によかったです。

(池田彩華)